ゆずり葉コミュニティ
逆瀬台小学校区
10.000人のまちづくり

ゆずり葉だより

健康で明るく楽しいまちづくり

編集・発行／ゆずり葉コミュニティ　事務局・広報　〈発行部数〉4,700部
〈住　所〉〒665−0024 宝塚市逆瀬台6丁目1番1号　宝塚市立逆瀬台小学校内
〈Eメール〉yuzurihacom@a.zaq.jp　〈連絡先〉中村 TEL72−5644
〈掲示板〉http:// 8507.teacup.com/yuzuriha/bbs（自由投稿版）
〈ブログ〉http://www.voluntary.jp/weblog/myblog/230
〈ホームページ〉http://yzrh.exblog.jp/　〈TEL/FAX〉0797−73−8839

夏　第88号

「ゆずり葉コミュニティ」の変遷

相談役　井筧曄雄

まちづくり協議会の設立に向けて

1969年（昭和44年）に国民生活審議会、コミュニティ問題小委員会での中間答申を受けて以降、日本の多くの地域では70～80年代（昭和46年～平成元年）にかけてコミュニティ政策への取り組みが始まりました。飛行機で行動する区域が国であり、自動車で動く区域が都道府県であれば、自転車で用を足せる区域は市町村であります。そして更に、小学校の区域毎に歩いて生活し連絡を取り合える区域（コミュニティ）に、小さな政治が必要と考えられるようになりました。

良い政治が育つには、これくらいの小さな単位で各地に自治区が組織されて、自治意識が育まれることが必要と考えられるようになった訳であります。

宝塚市では、平成5年から新しくコミュニティ課を新設して、市の主導で市内の小学校区を単位（人口約1万人程度）として、住民活動の横断的な協議会を組織し運営を図るよう推進してきました。

逆瀬台小学校区においても、平成5年から平成7年にかけて10数回の準備委員会が開催され、平成7年6月24日に市内第9番目のまちづくり協議会が発足しました。これが「逆瀬台小学校区まちづくり協議会」（通称ゆずり葉コミュニティ）であります。

設立当初のさまざまな取り組み

市は、私達の街の協議会発足と同時に、まちづくり協議会補助金交付要綱に基づいて補助金386千円を交付しました。ただし、これには次の2つの条件が付きました。即ち、その1つは、年に1回程度地域を挙げてのイベント開催に努力することであり、2つ目は、広報紙の発行でありました。広報紙の方は、平成7年10月1日に漸く創刊号を発行以降毎年4回ずつの発行を着実に継続し、平成29年4月には第87号を発行する運びとなり、域内住民への情報発信と親睦、外部関係機関への情報公開に多大な成果を収めてまいりました。

一方イベント開催の方は、初年度だけは11月1日に逆瀬台小学校の体育館において創立記念映画会として「地球交響曲」の上映を実施しましたが、次年度以降は、10月に逆瀬台小学校児童の課外授業として行われていた「ゆずり葉まつり」に便乗し、これを校区まちづくり協議会が主体的に実施する域内に神社のない地域の唯一のお祭りとして、育て発展させて行くよう目論みましたが、学校教職員とPTAの反対に合って、残念ながらこの計画は実行に至りませんでした。

協議会の運営にあたっては、域内を5つのブロック（光が丘、青葉台、北逆瀬台、東逆瀬台、西逆瀬台）に分け、各ブロックから役員5名、代議員10名ずつの合計75名がボランティアとしてコミュニティに参加し、その活動母体として、広報、教育文化、環境美化、健康福祉の4部を設けて、75名の役員及び代議員はそのいずれかの部に所属して、具体的に活動を展開することになりました。

年間30円の会費の徴収

協議会の発足にあたって、1人でも多くの地域住民に対して協議会への参加意識を促すためと、ブロック毎の参加率（組織率）判定の目安とするため、1世帯当たり年間30円の会費（協賛金）の納入をお願いしました。

宝塚市民であればすべての住民に、1部実費27円を掛けた広報紙（ゆずり葉だより）を年4回配布しており、1世帯当たりの年間受益額108円から見れば、年間30円の協賛金の納入は、さ程抵抗は無かろうと考えたのです。

しかし、当時から組織が整っていた自治会地域ではほぼ100パーセントに近い協賛金の徴収ができた反面、まだ自治会が組織されていなかったマンション群のうち或るマンションでは、居住する400世帯のうち協賛金を納めてもらえたのは僅かに3世帯（参加率0.7パーセント）というような極端な事例も発生しました。これに対しては、協議会の役員が先方の管理組合理事会に乗り込んで行って、丁寧に主旨を説明し理解を求める努力をいたしました。

現在では、各単位組織共に100パーセントの協賛金の納入を得ている状況から顧みますと、まさに昔日の感を禁じ得ません。

2面に続く

平成29年度定時役員会(総会)を開催
ゆずり葉コミュニティの役員・委員が決定

平成29年度定時役員会が、4月30日(日)、ゆずり葉コミュニティルームで開催されました。報告事項2件と議案3件が全員の賛成により原案通り承認されました。活動報告、会計報告などについては、前号の「ゆずり葉だより春第87号」をご覧ください。

《五役名簿（5名）》

相談役	井筧曄雄
会長	中村一雄
事務局長	石谷清明
活動支援局長	古泉義太郎
特命部長	遠藤捷爾

《監査役員（1名）》

監査役員	宮岡昭一

《事務局委員名簿（5名）》

広報委員	北川順子
〃	篠原和豊
書記委員	高崎恒子
経理委員	山川恵美子
施設委員	中村一雄

《活動局委員名簿（10名）》

活動委員	西澤芳正
〃	岩井友久
〃	大迫規子
〃	清水妙子
〃	久原正基
〃	宮部鶴子
〃	大河原礼子
〃	石谷清明
〃	内田佑子
〃	村田敬子

《平成29年度役員名簿（19名）》

自治会及びマンション管理組合	役員名
逆瀬台自治会	大澤喜弘
〃	佐野幸二
光ガ丘自治会	古泉義太郎
〃	小畠一郎
阪急逆瀬台アヴェルデ自治会	外山算彦
〃	栗林和晃
逆瀬川グリーンハイツ自治会	遠藤捷爾
〃	柳瀬邦雄
阪急青葉台自治会	光村正生
〃	大森正広
逆瀬川マンション自治会	山本　勝
宝梅園団地自治会	木下満江
宝塚西山住宅自治会	本行正信
ゆずり葉台自治会	原　裕子
阪急逆瀬台マンション自治会	石谷清明
逆瀬台２丁目自治会	中村一雄
逆瀬川パークマンション管理組合	平塚圭子
逆瀬台住宅管理組合	河本京太
シャンティー逆瀬川管理組合	石丸誠一

● 逆瀬台小学校区　選出者

《 宝塚市自治会連合会役員名簿 》

会長＝中村一雄、理事＝古泉義太郎
理事＝石谷清明

1面から続く

その後生じた課題の克服

このように種々の課題を克服しながら、その後の12年間（平成7年～平成18年まで）を経過する中で、新たに次のような問題が生じてきました。

その①は、コミュニティの活動は、自然発生的に意欲を持った個人が自由に参加できることが基本である。従って、協議会の運営も形式ばらず幅広い層からの個人の参加を認め、柔軟に対応することが望まれる。そうでなければコミュニティ結成の意味がなくなる。このような考え方のコミュニティグループ（ゆずり葉グループ）と、同じ地域の既存の自治会との間に縄張り意識のようなものが芽生えて、種々の軋轢を生むことになってきました。

その②は、積極的な個人参加と意思表明を尊重するあまり、役員会においてもこのような考え方の役員が増加して、定数を基本とした役員会本来の議決機関としての機能が、崩壊することになりました。

その③は、このように新しいとされる単なる活動家の発言や行動は、自治会がまちづくりの中核と位置付ける行政のコミュニティ施策とも相容れない事例が頻発し、様々な場面で行き違いを生じるようになってきました。

そしてその④は、いろいろなボランティアグループが各種の補助金の執行段階で優先順位を主張し始め、限られた補助金の適正な分配と運用に度々支障が起き始めてきました。

このような難しい状況を早急に解決しなければ、協議会自体の存続が危ぶまれる事態となり、緊急な改革が求められてきたのです。

そこで平成19年からゆずり葉コミュニティの組織改革に向けて、域内の6つの自治会から成る「自治会連絡協議会」が中心に種々の検討が行われ、「まちづくり協議会の中核は自治会である」という市のコミュニティ施策の基本に立ち返って、組織を根本から建て替え、新しい会則を制定し、平成20年4月1日以降改めて現行の形での「逆瀬台小学校区まちづくり協議会」が発足したのです。

新たな組織づくりの確立

地域自治を充実させていくためには、それに対応するための地域の組織づくりが大切になってきます。組織づくりに向けての議決機関として、域内の各自治会と「みなし自治会としての各マンションの管理組合」を単位組織として、これ等から選出された代表をもって議決機関を構成する、いわゆる「代議員制度」が重要になってきました。まちづくり協議会の役員会を構成する域内の14の単位組織のうち、6つの自治会はその自治会の会長又は副会長、そしてみなし自治会である8つのマンションでは、そのマンション管理組合の理事長又は副理事長がそれぞれの単位組織の代表として協議会の役員会に出席するため、それぞれの単位組織での問題点や提案事項は直ちに役員会で審議されますし、役員会で決議された事項は遅滞なく確実に14の単位組織へ伝達され、具体的に実行に移される仕組みが確立したのです。

自治会結成に向けての努力

一方、既存の自治会は地域内の環境整備や生活安全、見守り活動などを担うことによって地域の共同体としての機能を果してきたのですが、マンション管理組合は、本来財産管理が主業務であって、自治会としての活動面では遅れているのが実情であり、まちづくり協議会としては、みなし自治会としてのマンション群の中から1つでも2つでも自治会結成への促進を図ると共に、組織、機能面での既存の自治会との格差の是正や改善に努力して行くことが必要となってきたのです。

そこで、みなし自治会としての8つのマンション群は、独自に「校区集合住宅協議会」（白瀬川両岸集合住宅協議会）を立ち上げ、相互の意思疎通と相互補完を強めると共に、自治会結成の促進に向けて前向きに意識改革を推し進めてきたのです。平成20年以降平成28年までの8年間で、既に5つのマンションで自治会結成の運びとなり、その結果まちづくり協議会を構成する14の単位組織のうち11の単位組織が自治会となり、あと自治会未結成のマンションは3つを残すのみとなりました。

残り3つのマンションも早期にこれに続くべく鋭意努力中なのが現状であります。

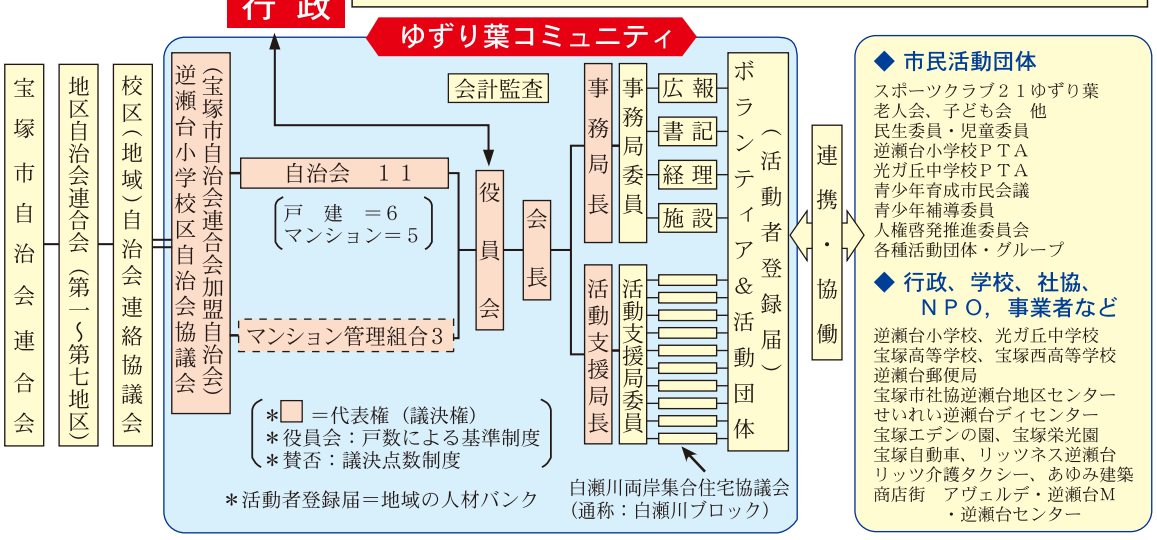
おわりに

これは、市内20のまちづくり協議会を見渡してみても他に類を見ない画期的な実績であり、このように組織体制が充実したまちづくり協議会は、他に存在しないのが実態であります。

以上述べてまいりましたように、今や我が逆瀬台小学校区まちづくり協議会（ゆずり葉コミュニティ）は、市内20のまちづくり協議会の中でも屈指の組織と運営を誇っておりますが、此処までに至る変遷の過程では、先人の血の滲むような努力が重ねられて来たことを決して忘れてはならないと、改めて思うものであります。

組織図

■自治会を中核（合意形成の確立）とした組織づくり、各種団体との相互補完、連携・協働による組織の一元化と機能化を図っています。



ゆずり葉コミュニティ区域の主要イベント

光ガ丘盆踊大会

逆瀬台桜まつり

当会は平成７年の発足以来、地域住民間の交流を図り、逆瀬台小学校で子供達を中心に盛大な秋の「ゆずり葉まつり」を開催。同校の保護者会「ゆずりは会」は、地域住民と半年かけて企画立案を実施。

「ゆずり葉いけ花こども教室」は、平成１７年から文化庁の支援を受けて子供達の豊かな人間性を育むことで毎月活動。

「ゆずり葉緑地公園で毎日「ラジオ体操」を開催。真冬は真っ暗闇ですが、春が近づくと太陽が顔を出し明るくなる。

Ｇハイツ夏祭り

逆瀬台夏祭り

逆瀬台文化祭

白瀬Ｂ餅つき大会